

Close up  
だて

— 夢をあきらめない —  
世界ジュニア柔道選手権大会  
個人戦66kg級・団体戦で優勝

あさりまさや  
浅利昌哉さん  
(神奈川県平塚市)



アブダビでの世界ジュニア柔道選手権大会  
(左は60kg級で優勝した同大学の永山竜樹選手)

**昨**年10月23日〜27日にアラブ首長国連邦で開催された「2015年世界ジュニア柔道選手権大会」の個人戦66kg級と団体戦に出場した伊達市出身の浅利昌哉さん。「伊達市の皆さんが応援してくれていると思うと緊張しない。力を存分に発揮できた」と自身初の世界大会で見事優勝を飾りました。

小さい頃から負けず嫌いで、5歳のときに自分より体の大きい友達に投げられて「このままでは終われない」と幼いながらも柔道を習いたいと懇願。当時お父さんは「サッカーや野球をしたらどうか。時間が経てば興味が移るかも」と考えていましたが、縁あって6歳のときに伊達柔道スポーツ少年団に体験へ。「上級生に投げられて怖がるのでは」と考えていたお父さんの予想に反し、浅利さんの負けん気がさらに燃え上がり、柔道生活がスタートしました。

中学校は強豪校の東海大学附属第四中学校を自ら選択。中学3年生で全国中学校柔道大会(60kg級)で準優勝、東海大学附属第四高校に進学後は、「寝技」を武器に2年生で全国高校選手権優勝など、着実に力をつけ、平成25年には市特別表彰も受賞しました。

東海大学入学時に階級を66kg級にあげ、今は大学に通いながら、全日本強化合宿に参加するなど休む間もなくレベルアップに動んでいます。

そんな浅利さんが次に見据えているのは「東京オリンピック出場」。

「2020という数字には敏感で、毎日そのことだけ考えている(笑)。11月から始まる選考会は人生を賭けるつもりで挑みたい」と力強く話してくれました。

子どもの頃に抱いた「夢」をあきらめず、実現に向け一歩ずつ階段を上る浅利さん。4年後のオリンピックが楽しみみです。

経 歴	
平成7年11月	伊達市で生まれる
平成22年8月	全国中学校柔道大会60kg級2位(中学3年生)
平成24年8月	インターハイ60kg級2位(高校2年生)
平成25年3月	全国高校選手権60kg級優勝(高校2年生)
平成27年9月	全日本ジュニア66kg級優勝(大学2年生)
同年10月	世界ジュニア66kg級優勝

表紙のはなし



1月17日、武道館で行われた「新春みんなで百人一首」。今年も小さな子どもから大人まで、幅広い年代の方が参加しました。

競技が始まると、読み手の声に集中し、真剣な表情で木札を取り合う参加者。それでも、競技が終わると笑顔で会話を楽しむなど、和気藹々とした雰囲気の中、新春の遊びを楽しんでいました。

楽 画 記

■例年通りあつという間に1月が終わり、2月です。早くも今年立てたばかりの目標が霞み、気持ちと体を引き締めなければと思っては、「明日からはちゃんとする。」の繰り返し。昔のドラマで「明日やろーはバカヤローだ！」というセリフがあったようななかったような。今年こそ、今年こそは！頑張り、つたい！です(希望)。(す)

■「肩こり」：冬は疲れ目との合せ技で頭痛と吐き気に見舞われます。首を回すとゴリゴリという音と少しの爽快感が。ところがある健康情報番組で「首を回すのは関節の無駄遣い。改善には首の前を暖める、1時間に1回上を向く、首筋の胸鎖乳突筋を丁寧に押しとほくれる」とのこと。皆さんもお試ください。(と)

■今年は暖冬の影響で降雪量が少なく、近隣のスキー場の営業に大きな影響を与えています。そのせいか、私がスキー場に行く回数も例年より少なめで、今シーズンはまだ2回。ただでさえ運動不足になってしまうこの季節。お正月についてしまった「余計なもの」を落とすため、今月から一生懸命通いたいと思います。(た)

とじて保存しましょう

発行・編集 伊達市企画財政部企画課

TEL 0142-23-3331 内線238・239

FAX 0142-23-4414

E-MAIL kounou@city.date.nokkaido.jp  
〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1